

## ～可能性を狭めずに、“チャンス”と捉える～

松浦寿幸研究会 M.H.さん 単独インタビュー

**経ゼミ委員**：どうして松浦ゼミに入られたのですか？

**M.H.さん**：そうですね、理由のまず一つ目として**研究分野に興味があった**からです。私は高校生の時から街づくりに関心があって、何かその分野に関連したゼミがあれば入りたいな、と2年生の頃から思っていました。**松浦ゼミの場合、街づくりを直接勉強出来るというわけではないのですが、企業立地でしたり、企業のイノベーション、都市の国際競争力などをゼミのテーマとして扱っていらっしゃったので、そこで、間接的に街づくりのことを勉強できるのではないか**と思いました。また、**データ分析という社会になっても使えるスキルが身につくことと、あと何より、新しく出来て1年目のゼミだったので、自分たちでゼミを作れる・歴史を作れるのではないか**といったところに魅力を感じて、松浦ゼミをB日程で受験して入らせていただきました。

**経ゼミ委員**：そうだったんですね。松浦ゼミは元々入ゼミの説明会やオープンゼミで参加されていたのですか？

**M.H.さん**：あの実は、A日程の前に経ゼミにフォームに流す制度だったと思うのですが、そのフォームを送る1週間前に松浦ゼミができました！という連絡があったので、受けるまで、松浦先生がどんな先生かも知らなくて、何をしている方なのかも知らなかったんですね。

**経ゼミ委員**：なるほど。では、A日程では、別のゼミを受験されたと思うのですが、B日程を受験する際に、松浦ゼミを選ばれたのでしょうか。

**M.H.さん**：最初、A日程でどうしても行きたいゼミがあったんですけど、先ほどもお話ししたように1週間前に松浦ゼミの新規開講の話を聞き、ちょっと松浦ゼミの研究分野も面白そうだなと思うところがありました。ですが、今までの人生を振り返った時に、1回も第一志望に受かったことがないなと思い、ここで最初から受かる見込みのあるゼミに行くのではなく、また**一通り挑戦していこう**と思ったんです。挑戦してダメだったら、松浦ゼミにしよう、初志貫徹でいくことを決めました。

**経ゼミ委員**：そうだったんですね。A日程の志望のゼミはどのような経緯だったのですか？

**M.H.さん**：先ほども、街づくりに興味があると言ったのですが、そうなってくると候補としてあがってくるのが、河端ゼミとか、武山ゼミといったところだと思うんですけど、A日程で受けたのが栗野ゼミだったんです。栗野先生は元々、京大の土木工学科ご出身の、都市工学を直接勉強されている方で、都市計画ではミクロ経済学の知識も必要になることがあり、栗野先生のゼミに惹かれたというのがあります。なにより、栗野先生は、ミクロ必修の先生だったので、自分のよく知っている先生のもとに行きたいと思い、受験しました。

**経ゼミ委員**：A日程で不合格だったとき、どのように気持ちを切り替えましたか？また、A日程を受ける前から、B日程のことも考えられていたのですか。先ほどのお話だと松浦ゼミも魅力的だったとのお話もありましたよね。

**M.H.さん**：欲張りな性格だったので、A日程落ちたら、B日程で松浦ゼミを受けることが出来るじゃん！と思っていました。ただ、A日程に落ちたときはショックでしたし、2～3日部屋に引きこもっていました。(笑) **逆に言えば、松浦ゼミで勉強するチャンスができたので、3～4日で気持ちを切り替えて、受かるために頑張ろうと心を決めました。**

**経ゼミ委員**：入ゼミ試験を受ける以前に、もっとこうしておけばよかったと思われることはありますか？

**M.H.さん**：そうですね、1つは、**いい成績をとることに越したことはない**、ということですね。これはあまり良い話ではないのですが、栗野ゼミを友達と受けたときに、その友達が不合格だったことに納得いかなかったみたいで、直接先生に理由を尋ねたら、みんなテストも面接もよかったので最後は成績で切りましたという返答が返ってきたらしいんです。なので、ゼミによっては最後は成績で切られる可能性があるんで、皆さんには気を付けて頂きたいと思います。

**経ゼミ委員**：松浦ゼミに入ってどのようなところが良かったですか？

**M.H.さん**：先生が**すごく優しい方で、面倒見のよい方だ**というのがあります。初めは、ミクロ経済学のゼミを志望していて、ミクロ経済学はある程度自信があったのですが、統計分野は1年生の頃から少し苦手としていて、そのような中で松浦ゼミに入ったので、**本当についていけるのかと不安ではありました**。ですが、先生が1から統計ソフトはこうやって使うんだよとか、こういうデータに対してはこの分析手法でやるといいなど色々ご教示くださったので、**統計学がすごく苦手であった身でありながらも先生と一緒に二人三脚ではないですけど、あまり苦勞することなく統計学になじむことが出来て、今では1人で卒論を書けるようになったので、先生の懇切丁寧なご指導が本当にありがたかった**ですね。

あとは、**1年目のゼミ**ということで、先生と手探りでゼミをどう運営したらよいかと考えるときもあったので、ゼミ生同士の結びつきもそうですし、先生とも仲良く過ごすことができたので、本当に松浦ゼミに入ってよかったなと思います。

**経ゼミ委員**：新規募集ゼミだからこそその魅力は何でしょうか？

**M.H.さん**：どうしても先輩がいるゼミだと、ある程度ゼミの方針は決まってしまうので、この時期にはこういうことをやって、その次はこれをやるというのが、先輩や先生が指示をして、3年生もそれに合わせて行動していくというパターンになりがちだと思うのですが、自分たちの場合はそのような縛りが一切なかったのも、**やりたいことを伸び伸びとできる、やろうと思ったことは何でもできる環境**だったと思います。先生に対して「こういうことをやってみたい」「こういう研究をしてみたい」「こういうイベントを開いて他の人と交流をしてみたい」というのもOKしてくださることが多いので、そういったところが歴史のあるゼミとは違って新規ゼミならではの魅力なのではないかなと感じます。

**経ゼミ委員**：なるほど。「自分はこういうことがやりたいけれど、ゼミではできないのではないか」と思っている2年生もいるかもしれませんが、新規ゼミでは自らそれを実現出来る可能性が高いのですね！  
それでは、学生生活を振り返って、ゼミはどのような存在でしたか？

**M.H.さん**：3,4年生の自分の三田生活の心臓・ペースメーカー的な存在でしたね。

やはり、**ゼミを中心として3,4年生の履修も決まってくる**と思うので、例えばマクロ経済学のゼミに入っている人はマクロ経済学に関連した授業をとると思いますし、経済史のゼミに入った人は歴史系の授業をたくさんとって自分の卒論に役立ちそうな知識を蓄えていく形になると思うので。

そういった意味で、自分も松浦ゼミに入った時に、全然苦手だった統計学を克服するために、データ分析の授業もたくさんとりましたし、研究テーマを探すために、松浦先生が研究されている国際経済学の授業だったり、元々興味があった街づくりの勉強をするために都市～という授業をとってみたい、東京工業大学の単位互換制度を使ってもっと理系的なアプローチから都市計画や土木工学を学んだりもしたので、**ゼミがあって初めて自分の三田生活の3,4年の方針が決まっていくのではないかな**、と振り返ってみると自分はそのような感じで過ごしていました。

**経ゼミ委員**：A日程で不合格だった2年生へ何か伝えたいことはありますか？

**M.H.さん**：2年生には、**A日程で不合格だったとしても腐らず、ぜひまたB日程でチャレンジしてほしい**ですね。

例えば、自分の場合はずっとミクロ経済学を3,4年生でやるものだと思って2年生の時に過ごしていましたが、**実際にふたを開けてみるとデータ分析という全く違うことをやっている**。最初苦手だと思っていたデータ分析も、始めてみると面白いことたくさんありましたし、入ったゼミの先生も本当によい方だったので(笑)

A日程で受験される2年生は、なみなみならぬ思いで入ゼミ試験に臨んでいると思うのですが、仮に残念だったとしても、もしかしたら**自分が思ってもいなかった出会い**があったり、**何か将来を変えてくれるようなゼミや研究分野との出会い**はあると思うので、今の段階で「この勉強がしたいからこのゼミ！」と決めている2年生も多いとは思いますが、**可能性**

は狭めずに、B日程になったときに「A日程でこのゼミはだめだったけれど、逆に言えばこっちのゼミをB日程で受けられるチャンスができたじゃん！よしそれに向けて頑張ろう！」という気持ちで臨んでもらえれば、B日程やC日程で合格をもらって、もしかしたらA日程で受かったゼミで味わえなかったような体験ができて、それが自分の三田生活を彩り豊かにしてくれるんじゃないかという風に考えているので、あまり落ち込まないで頑張ってくださいとお伝えしたいです！

**経ゼミ委員**：休むのも大事でしょうか(笑)

**M.H.さん**：そうですね(笑) A日程だと、本登録から入ゼミ試験まで1か月間くらい間があるので、その1か月間合格のためにものすごく勉強される方が多いと思うので、**1か月間頑張った自分はよく頑張ったねと1回労ってあげて、落ちたら、3,4日は泣いて引きこもっても別によいのではないか**と思います。それで、泣ききってもういいやとなってから、B日程に向けて勉強するのも全然遅くはないのではないかと思います。

ただ、自分はB日程で受ける場合は松浦ゼミとほぼ決めていたので、3,4日何もしなくても大丈夫でしたが、もしB日程で受けるゼミを何も決めていないままそれをしてしまうと、3,4日経ってから慌ててB日程で受けるゼミを探さなければいけなくなってしまうので、そうならないように、**初めから第1志望、第2志望、第3志望のゼミとある程度ランク付けをしておいて**、それに応じて例えばこのゼミ倍率が高いから逃げようとか、あるいはこのゼミは多分B日程でも大丈夫そうだから、このゼミをB日程で受ければ自分の三田生活は大丈夫だと言えるようになるまで、**リサーチをしておく**ことが大事かなと思います。

**経ゼミ委員**：たしかにそうですね、実際に受ける前までに、ちゃんと情報収集をして、自分なりに作戦を立てて準備をしていくということですね。それでは、今振り返ってみて当時に戻るとしたら、栗野ゼミをA日程で受けると思いますか？それとも松浦ゼミをA日程で受けると思いますか？

**M.H.さん**：そうですね、たぶん栗野ゼミを受けずに**松浦ゼミを受ける**んじゃないかなと思うくらい、**自分は今松浦ゼミを気に入っていますね**。それぐらい先生も優しかったですし、何よりもデータ分析ってこんなに面白いのかということを知ったので。

今まで、知らなかった因果関係や事象と事象の結びつきを知ることができたので、そういった知識は社会に出てからも使えると思いますし、**将来の幅が広がった**と思います。ミクロ経済学を直接使う仕事ってあまりないかもしれませんが、データ分析を直接的に使う仕事って結構あると思うので、そういった意味でも**就活の時にも色々なものに興味をもって挑戦することができた**という点で、生まれ変わったとしても自分は松浦ゼミに行くんじゃないかなと思います。

**経ゼミ委員**：2年生のときは苦手だと感じていたことでも、ゼミではできるようになった、その違いは何だと思われますか？2年生のときに苦手だった分野のゼミは見えていない、という人もいるかもしれないのですが...！

**M.H.さん**：経済学部必修の統計学の授業だと、1人の先生に対して何百人もの学生が同時に

受けるという形なので、友達に聞いても実はわからないみたいなことって多々あったと思うんです。結局よくわからないまま試験を迎え、よくわからないまま単位をもらうという形で統計が苦手になっていく人って、自分もそうでしたがいるんじゃないかなと思います。

でも、ゼミの場合は1人の教授に対してもたかだか10人強の学生しかいないので、**先生が1人1人の統計学のレベル・知識をよくわかっていますし**、生徒に合わせてこういう授業をとってみたいんじゃないとか、先生が自ら補講をしてくださったりなどありますので、何も統計学に限った話ではないとは思いますが、自分が苦手だと思っている分野のゼミに入ったとしても、**先生が手厚くフォローをして下さる環境はこのゼミにも備わっていると思う**ので、そこはあまり気にしなくていいんじゃないかなと思います。

B日程でゼミの選択肢が減ってきて、興味はあるけれど苦手な分野のゼミを志望するという人も多いとは思いますが、そこは気にせず、積極的に出願するべきだと思います！

**経ゼミ委員**：これから、入ゼミを迎える2年生に向けてのメッセージをお願いします！

**M.H.さん**：今年はコロナウイルスの影響もあって、これまでだったら1日に何十個もまわれたゼミ説も、1日6個くらいしかまわれなかったと思うので、**第3回では、ぜひ第1回、第2回では見られなかったゼミとかを見てみて**、本当は絞りこまなきゃいけない時期にはあると思うのですが、何かトラブルがあったときにすぐに志望を変えられたりとか、実はこっちの方が自分のやりたい研究ができるんじゃないかということをちゃんと**見極めるために、第3回ゼミ説も積極的に参加してほしい**と思います。A日程の結果がダメだったとしても、B,C日程でまだまだ自分に合う、入ったらA日程よりも自分が幸せになれるゼミはいくらでもあると思うので、結果は気にせず引き続き勉強等頑張っていたらよと思います。

**経ゼミ委員**：最後に、**松浦ゼミのアピールポイント**は何でしょうか？

**M.H.さん**：まずは、**本当に先生が優しいところ**ですね。1回も怒っているのを見たことがありませんし、どんなにクオリティが低い研究発表をしたとしても、怒るのではなく、**どこがいけなかったのかを冷静かつ懇切丁寧に教えてくださる**ので、発表するときも何も怖がらずに行うことができ、次につなげることができました。そして、何よりも**データ分析のスペシャリストの方**なので、聞けば何でも教えてくださいますし、**データ分析以外でもとても博識な方**なので、松浦先生の研究専門外なんじゃないかという分野でも質問をすると色々とお話ししてくださいます。一応国際経済学というカテゴリーにはありますけれど、データ分析であれば何でもできますので、もし「**統計学は苦手だけれど統計ソフトを使ってデータ分析をしてみたい!**」という方がいらっしゃればぜひ来てください！

それから、2期目の(今の)3年生の方たちも、留学生や他大生など個性豊かだにぎやかなメンバーがいますので、**そういった多様な先輩たちと勉強できる**のは松浦ゼミじゃないとなかなかできないと思いますので、ぜひ1人でも多くの方に松浦ゼミを受験いただければと思います！

**経ゼミ委員**：改めて、2年生には第3回説明会で色々なゼミの魅力をもっと知っていただきたいと思いました！本日はありがとうございました！

#### 【編集後記】

第6回目のインタビューとなる今回は、B日程を受験されて入ゼミされた方にお話を伺わせていただきました！本当にありがとうございました！

お話を伺う中で、気づいたこととしては、可能性（視野）を狭めずに、全てのことを”チャンス”だと捉えよう、ということです。確かに、A日程で落ちてしまっても、まだB日程もC日程もある、と考えればチャンスは2回ありますよね。これからA日程を迎える皆様には、諦めないで、チャンスを逃さないで、入ゼミに臨んでいただきたいと思いました。

そして、今回のインタビューを通して、まだまだ知らないゼミの魅力が沢山あることにも気づきました。これからもゼミの魅力を伝えられるように、インタビューを頑張っていきたいなと思いました！

最後までお読みいただき、ありがとうございました！（登内美月・田中麻里安）